



まちライブラリー代表 武者正樹さん

プロフィール

登別出身  
 本業は理容師  
 「スタジオメンズ」を家族とともに経営  
 趣味は水泳と読書。最近ハマっている本は、『メモの魔力  
 (著者：前田祐二)』  
 どんなに忙しくてもメモをとるやり方を実践している。

どのような活動をしていますか？

だれでもどこでもまちの中で小さい図書館をつくっちゃおうという活動をしています。

感想を書いたメッセージカードをそえて本を持ち寄り、次に読んだ人も同じように感想を書いていきます。そうして一つの本を通して町の中で知らない人同士がつながっていき、新たな出会いや、コミュニティを生み出すのが“まちライブラリー”です。

活動を始めたきっかけは？

「どうしてこんなにもネットやスマホに依存しないとならないのか。」「この町で暮らしていくためにまず何をすべきなんだろう。」と昔から社会や世の中への不満、違和感、疑問を感じていました。

子どもが生まれてさらに「子どもたちの将来のために親として何か出来る事があるんじゃないか」このままでいいのだろうかと感じました。

ある日、一冊の絵本「世界でいちばん貧しい大統領のスピーチ」と出会ったことが自分を変えるきっかけになりました。社会は変えられないけど、小さな社会なら何か出来るのではと思いました。

それから、「まちにとって良い事、みんなにとって良い事はなんだろう、簡単に町みんなの音が聴ける仕組みはないだろうか。」と模索していたところ、テレビのニュースで見た、千歳市のまちライブラリーに行き、まちライブラリーを行っている人達と話して、「これだ!」と思い始めました。

「やっていた良かった。」と思う事はありますか？

まちライブラリーを始めて新しい出会いがたくさんあり、現在は、一緒に悩んでくれる仲間がいて、アドバイスをくれる人がいて、ましてや僕を必要としてくれる人もいて、今では夢が半分叶っているというか以前から比べるとキセキのような経験をさせてもらっています。



現在の課題があれば教えてください。

登別市に設置した8カ所のうち2カ所思う様にスタート出来てない所があります。コロナウィルスの影響で子どもスペースを縮小した所もあります。

また、それぞれのスポットの熱量に差が出ており、自分自身も常に、何が正解なのかと悩んでいますが、その場所ごとに様々なやり方で無理なく出来るのがまちライブラリーなのでゆるく長くやっていきたいです。

